

令和8年3月 25 日
校長 都丸利幸

令和7年度 修了式あいさつ

- みなさん、おはようございます。校長の都丸です。
- 本日は、令和7年度の修了式です。令和7年度1学期の始業式では、私から皆さんに対して、自分の目標や自分なりのインクルーシブな取組みを考えてもらいたい。そしてそれに一歩でも、二歩でも近づけるように取り組んでもらいたいとお願いをしました。
- また、災害の話から、先をみて行動すること、先のことをイメージし、自分の頭で、あるいは行動でシミュレーションすることがよいということをお話しさせていただきましたが、記憶にありますでしょうか。
- みなさんには、この1年を振り返ってみて自分の目標、自分なりのインクルーシブな取組を達成し、行動する際には先をイメージして行動できたでしょうか。
- さて、私はいつもこの修了式や始業式などの際に、みなさんに何を伝えようかと考え、悩みます。
- 先日の3月3日は、49 期生の卒業式があり無事に卒業生を送り出すことができました。3年生は各クラスで卒業までのカウントダウンを A4 一枚に絵柄として描いてクラスで飾っていましたが、その中で、一人の生徒が私の似顔絵とともに「思いやり」と書いたものを飾っていました。
- 私は改めて「思いやりの気持ちを持つように」と常に伝えていたということをお出ししてくれました。そこで、やっぱりみなさんにはこのことを伝えさせていただきたいと思いました。
- 今、広く世界をみれば、国同士の紛争が起こっています。インターネットやスマホの普及によって簡単に世界の人とのつながりももてます。プラスチック利用によって利便性が高まった一方、ゴミや再生の問題もあります。AI の普及など技術革新が加速的に進み、社会構造の変化もみられます。
- 国内では、震災による復興や被災者の思い、物価の高騰、人権の問題など様々なことが多岐にわたって考えるべきことがあります。
- このように、社会では様々なことが起こり、その時々でその問題解決に向けて対応していく必要があります。
- その時に忘れてはならないことは、やはり私は「思いやり」が大切だと思います。そしてそこに「感謝」の気持ちももっていただくと嬉しいです。
- 何か問題が起きた時には、そこには相手があります。自分には自分の思いがあります。他者には他者の思いがあります。そこを理解すること、そして自分とともに他者も大切に考え、両者に対して思いやりを持つことが大切なのではないかと私は考えています。

- では、これからみなさんにどのようなことを学んでいてもらいたいとかといえば、インクルーシブについて、考え、どのように「思いやり」を表現し、形にしていけるかが大切だと思います。
- みなさんが、インクルーシブ教育実践推進校のこの霧が丘高等学校で、インクルーシブとは何なのか、自らがどのような考えや行動が必要なのか。そんなことをこの霧が丘高等学校で探究していただき、共生社会の実現に向けて進んでいったもらいたいと思います。
- 残念ながら今の社会は、まだまだインクルーシブな社会とはいいいがたいものと考えています。
- みなさんが本校を卒業した際には、是非とも共生社会の実現に向けたインクルーシブな社会の担い手として社会を先導してもらいたいと思います。
- そのために、一人ひとりがインクルーシブということを考えていただき、次年度、どのようなインクルーシブな取り組みをしていくのかを考えてもらいたいと思います。
- 新年度、またみなさんの活躍を大いに期待したいと思います。